

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 水 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (近世の芸道―芭蕉と漢詩文) Language and Art (The way of Japanese art in early modern times.)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:若木太一 / Eメールアドレス:wakaki@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室:環境科学部413 / オフィスアワー:木曜 16:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 近世芸道をつらぬく芭蕉の「風雅」の精神史を探る。とくに中国文学からの影響を検証し、現在につらなる「道」の理念を理解する。 授業方法: 芭蕉の俳諧や俳文、紀行文、あるいは俳論で語られる言葉には、とくに杜甫やいくつかの詩論など中国文学から得られたところが少なくない。芭蕉の作品を読みながらその原拠を示しながら比較文学の方法で受容と展開をみていく。 授業到達目標: 俳諧や紀行文の原拠を知り、芭蕉俳論の雅俗や不易流行論など、近世文学論の骨格を理解する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 近世は和文に対して、中国の漢詩文に多くの文人が影響を受け時代であった。以下のような代表的な紀行文、俳文を解説していく。 テキストおよびプリントを使ってわかりやすく味読する。 第1回 「野ざらし紀行」(1)―「江湖風月集」― 第2回 「野ざらし紀行」(2)―「莊子」― 第3回 「笈の小文」(1)―「莊子」― 第4回 「笈の小文」(2)―「論語」、杜甫「古栢行」― 第5回 「おくのほそ道」(1)―李白「春夜宴桃李園序」― 第6回 「おくのほそ道」(2)―杜甫「春望」(「杜律集解」)― 第7回 「虚栗跋」―侘びと風雅― 第8回 「蓑虫説」―蘇新黄奇― 第9回 「幻住庵記」―杜甫「岳陽楼記」― 第10回 「閑閑説」―「論語」- 第11回 「去来抄」(1)―不易流行「周易」― 第12回 「去来抄」(2)―風雅の誠「中庸」― 第13回 「三冊子」―杜牧「早行」(「三体詩」)― 第14回 許六「師説」―韓退子「師説」― 第15回 定期試験			
キーワード	風雅、虚実、不易流行、かるみ、ほそみ、侘び、寂び、		
教科書・教材・参考書	テキスト:「芭蕉紀行文集」(岩波文庫) 参考書:「芭蕉俳文集」(岩波文庫)		
成績評価の方法・基準等	試験(60%)、小レポート、授業への積極的参加状況(40%)		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	言語芸術としての俳文、俳論を理解することを目標とする。		
備考(準備学習等)			